

当院 GICU で治療を受けられた患者さん及びその家族の方へ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	周術期および集中治療患者における筋肉量変化の検討
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	麻酔科、周術期集中治療部
研究責任者	教授（特任）、 藤田義人
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	<p>集中治療を行なった後に起こる筋力、認知機能、精神の障害である集中治療後症候群（post-intensive care syndrome: PICS）はよく知られた合併症であります。また、近年比較的小さな手術でさえ術後に筋力や呼吸機能の低下などが起こり、早期の元どおりの社会復帰の妨げになっていることが知られるようになってきました。</p> <p>我々は、GICU 内で早期の栄養、リハビリを行いこれらの合併症の予防に努めていますが、どこの筋肉がどれくらいダメージを受けているかは正確に把握できていません。体成分測定装置である InBody は、生体電気インピーダンスを測定することで、非侵襲的に簡便に、筋肉量、脂肪量、水分量、部位別筋肉量などを測定できます。この測定により、栄養状態に問題がないか、体がむくんでいないか、身体のバランスが良いかなどの情報を得ることができます。今回、この機械を用いて術後の患者さん、急変入室した GICU 患者で実際にどの程度の筋力低下が起こるのかを把握します。</p>
対象となる患者さん	2019 年 8 月から 2021 年 3 月に GICU で治療し、InBody による測定を行った患者さん
研究の方法	<p>InBody を用いて部位別の筋肉量、体水分量、脂肪量など測定し筋力低下の有無を検討します。</p> <p>測定は、手術予定患者では、術前、術後、退院前、また緊急入室の患者では、入室時、経過中、退院前に可能な限り測定をおこないます。それらの変化を検討し実際に PICS が起こっているかどうかや術後の筋力低下の実態を調査します。</p> <p>研究計画および、研究の方法に関して説明を受けることができます。下記</p>

	問い合わせ先まで申し出てください。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2021年3月31日
研究に用いる試料・情報	測定：術前、GICU入室時、退院前などに InBody を用いて筋肉量などの体成分を測定します。 情報：カルテ情報を収集します。患者背景として、男女、年齢、身長、体重、原因となった GICU 入室理由など。検査の値として、アルブミン、マグネシウム、腎機能などです。
外部への試料・情報の提供	なし。
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への測定値・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部麻酔科学講座、周術期集中治療部 担当者：教授（特任） 藤田義人 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 77637）